

平成25年 6月 6日
横浜信用金庫

平成24年度決算概況について

横浜信用金庫（理事長 斎藤 寿臣）の平成24年度決算が確定いたしましたのでお知らせいたします。

1. 本決算のポイント

- (1) 62期連続の黒字決算
- (2) 経常利益前年度比12.55%、当期純利益前年度比13.37%の増益

2. 業容について

預金（譲渡性預金を含む）の期中平均残高は、前年度比3.21%増加し1兆5,404億円、期末残高は同0.53%増加し1兆5,352億円となりました。

貸出金の期中平均残高は、前年度比0.87%減少し8,531億円となり、期末残高は同0.80%減少の8,576億円となりました。

3. 損益について

経常収益は、前年度比14億24百万円減少し283億29百万円となりました。貸出金の残高減少と利回り低下により貸出金利息が減少したことが主な要因です。

経常費用は、前年度比19億44百万円減少し236億69百万円となりました。経費と不良債権の処理費用の減少が主な要因です。この結果、経常利益は、前年度比5億19百万円増加し46億59百万円となりました。

また、本業の収益力を表す業務純益（一般貸倒引当金繰入後）は、前年度比8億94百万円減少し、60億29百万円となりました。

当期純利益は、前年度比3億28百万円増加し27億87百万円となり、昭和26年に信用金庫に組織変更して以来、62期連続の黒字決算となりました。

4. 諸比率について

預金貸出金利鞘は、前年度比0.009ポイント縮小し、0.79%となりました。貸出金利回りは前年度比0.09ポイント低下し2.12%、預金利回りは同0.006ポイント低下し0.09%となりました。経費を含めた預金原価率は経費率の低下により前年度比0.08ポイント低下し1.32%となりました。

総資金利鞘は、前年度比0.03ポイント縮小し0.17%となりました。資金運用利回りは前年度比0.13ポイント低下し1.50%となり、資金調達原価率は1.33%と同0.09ポイント低下しました。

自己資本比率は、前年度比0.09ポイント上昇し12.08%となりました。国内基準（4%）はもとより国際基準（8%）も上回る高い水準を維持しています。

5. 不良債権について

不良債権残高は、前年度比32億67百万円減少の544億59百万円となりました。不良債権比率は、金融再生法基準で前年度6.64%から6.32%に低下しました。

なお、不良債権に対する担保・貸倒引当金等による保全率は、95.57%と高い水準を維持しています。

6. 平成25年度計画について

平成25年度の利益計画は次のとおりです。

(1) 業務純益	43億78百万円	(前年度比	△16億51百万円)
(2) 経常利益	23億45百万円	("	△23億14百万円)
(3) 当期純利益	13億78百万円	("	△14億9百万円)

以上



横浜信用金庫